

一致と意味の相関：非名詞句主語の一致について

廣川 貴朗

1. 導入

英語には、一見名詞句ではない要素が主語（非名詞句主語）として現れる事例 (1) があり、等位接続された非名詞句主語は単数・複数一致を示すことが指摘されている (2)：

- (1) a. [CP that Shelby lost it] is true (Davies and Dubinsky (2001: 247))
b. [PP under the bed] is a good place to hide (Davies and Dubinsky (2001: 247))
c. [AP very tall] is just how he likes his bodyguards (Davies and Dubinsky (2001: 247))
- (2) a. That the march should go ahead and that it should be cancelled have been argued by the same people at different times.
b. That UNO will be elected and that sanctions will be lifted {is/??are} now likely (McCloskey (1991: 564-565))

2. 非名詞句主語の範疇と一致

先行研究において、非名詞句主語と動詞の一致は範疇に左右されることが指摘されてきた。Chomsky (2021:31) は (3) のように主張し、Ross (1973/2004: 351) は (4) の基準より (5) の尺度において左の範疇ほど名詞性が低く複数一致を許さないと主張した：

- (3) a. 等位接続された動名詞主語は単一の事象を表し、単数一致を示す
b. 等位接続された不定詞主語は複数の事象を表し、単数・複数一致を示す
- (4) The basic generalization is clear: the nounier a complement type is, the more plural will be any NP which results from conjoining two or more tokens of this type.
- (5) *that* > *for to* > Q > Acc-ing > Poss-ing > Action Nominal > Derived Nominal > Noun

Horn (1975), Rathert and Alexiadou (2010) は、等位接続された POSS-ing 主語が複数一致を示し、等位接続された CP/for to 不定詞/ACC-ing/PRO-ing 主語は単数一致を示すと主張する。

3. 非名詞句主語の意味と一致

先行研究において、非名詞句主語と動詞の一致は意味に左右されることが指摘されてきた。McCloskey (1991: 564-565) や Moltmann (1997: 238) は (6) のような制約を主張し、Hirokawa (2021) は前置詞句主語にも同様の制約が働くと主張した：

- (6) *that* 節主語の複数一致は等位接続された命題がそれぞれ異なる事態や矛盾する事態を示す場合のみ可能であり、整合する事態を表す場合は単数一致が優先される
- (7) 等位接続された前置詞句が単一の場所を表す状況で単数一致を示す。

しかし、これまで等位接続された動名詞節主語や不定詞節主語の単数・複数一致は体系的に調査されておらず、一致と範疇や解釈との相関も明確に示されてこなかった。本発表は、容認度判断実験を通して英語の等位接続された動名詞節主語や不定詞節主語の一致パターンが先行研究の主張に反して主語の範疇や解釈に影響されないことを示す。

4. 実験

等位接続された主語の解釈や範疇と一致との間に相関があれば、(i) 主語が単一の事象を指すか否か、(ii) 範疇の種類、によって主語の一致の間に容認度の差が生まれると予測される。

本研究は英語母語話者 11 名に対して、ターゲット文とその文脈を示す説明文のペアを提示し、5 段階のリッカート尺度を用いて容認度の回答を求める実験を実施した。ターゲット文は、(8) の 4 水準×2 水準×2 水準より、計 16 条件からなり、(9) に示した POSS-ing 形の例と同様の例を PRO-ing, ACC-ing, 不定詞についても用意した：

- (8) a. 構文タイプ：POSS-ing, PRO-ing, ACC-ing, 不定詞
b. 文脈タイプ：主語が単一事象を表す文脈, 複数事象を表す文脈
c. 一致タイプ：単数一致, 複数一致

(9) 例 : POSS-*ing*

a. 単一事象文脈×単数一致

[Every year at the party, Laura bakes the cakes and Kevin handles the decorations.]
Laura's baking cakes and Kevin's decorating them makes the party special.

b. 単一事象文脈×複数一致

[Yesterday was just too much—first Tom wouldn't stop talking during the lecture, and then Jerry kept texting right through the movie.]

Tom's talking during the class and Jerry's texting during the film were annoying.

c. 複数事象文脈×単数一致

[Emma stayed focused on her performance all afternoon, while Noah fine-tuned every lighting cue on his own. Both efforts stood out.]

Emma's rehearsing her lines and Noah's adjusting the lights was really impressive.

d. 複数事象文脈×複数一致

[Some of the most frustrating moments I've had still stand out: the time the cat shredded the paint off the living room wall, and when the dog leapt the fence and vanished for hours.]

The cat's scratching the wall and the dog's jumping the fence were frustrating.

また、動詞後の名詞句との一致の可能性を排除するため、述語は他動詞用法のみの動詞、形容詞もしくは前置詞が後続する *be* 動詞に限定した。

5. 結果

各タイプの容認度の平均値は (10) の通りであった。

(10)

構文タイプ	主語の表す事象×一致タイプ			
	単一×単数	単一×複数	複数×単数	複数×複数
POSS- <i>ing</i>	3.27	4.27	3.73	4.09
PRO- <i>ing</i>	4.64	4.45	4.55	4.00
ACC- <i>ing</i>	4.00	4.55	3.91	3.82
Infinitives	4.36	4.64	4.27	4.55

6. 考察・結語

上記の結果より、(i) POSS-*ing* の単数一致タイプと (ii) ACC-*ing* の複数事象文脈タイプの容認度が相対的に低い。Ross らは POSS-*ing* は複数一致を示す一方で ACC-*ing* は単数一致を示すと主張しており、本実験の POSS-*ing* と ACC-*ing* の結果は範疇と一致の相関を支持する。

これに対して、PRO-*ing* と不定詞節は単数一致・複数一致ともに容認度が高い結果となった。これは Ross らの主張に反しており、範疇と一致の相関が示されない。また、これらの構文タイプは文脈タイプによらず単数一致・複数一致の容認度が高いことから、意味との相関も明確に表れていない。

本実験の結果にはいくつかの問題がある。第一に、平均値においてはどの条件も比較的容認度が高く、非文と呼べる条件がなかった。第二に、本研究の結果からは、範疇と一致の相関、解釈と一致の相関がいずれも不明瞭であった。第三に、被験者が 11 名と少なかった。こうした課題は今後の研究にて明らかにしたい。

参考文献 (一部)

Davies and Dubinsky (2001) *Objects and Other Subjects* / Hirokawa (2021) "On Agreement of Non-nominal Subjects" / Horn (1975) "On the Nonsentential Nature of the POSS-ING Construction" / McCloskey (1991) "There, It, and Agreement" / Moltmann, (1997) *Parts and Wholes in Semantics* / Rathert and Alexiadou (2010) *The Semantics of Nominalizations across Languages and Frameworks* / Ross (1973/2004) 'Nouniness'